

2003年4月10日  
ミネベア株式会社

## 2003年4月10日開催 電話会議

2003年4月10日発表のプレスリリース「子会社の異動、スイッチング電源、インダクター、トランスフォーマー等の事業からの撤退及び業績予想の修正に関するお知らせ」につき、投資家・アナリスト向けにカンファレンスコールを実施いたしました。以下は当日の説明内容です。

### 全体業績

2003年3月期の業績は、売上高 2,720 億円、営業利益 186 億円、経常利益 136 億円、当期純損失 32 億円になる見込みです。中間決算発表時の業績予想は売上高 2,720 億円、営業利益 215 億円、経常利益 165 億円、当期純利益 65 億円でありましたので、利益が予想を下回る見込みです。

### 特別損益の部

初めに、当期損失が 32 億円の見込みとなりましたが、主要因であります特別損失の内容からご説明申し上げます。

2003年3月期通期の特別損益は 131 億円の損失になる見通しです。第3四半期までに累計 12 億円計上していただきましたので、第4四半期は 119 億円の損失が発生したということになります。主な内容はニュースリリースに記載している通りですが、

保有株式の減損処理により	49 億円
電源関連事業撤退整理損として	31 億円
米国子会社 IMC Magnetics Corp.売却・清算引当金として	7 億円
米国子会社における環境整備費として	12 億円

であります。

他に、第4四半期は、欧州の金融統括会社の Minebea Europe Finance B.V.の清算に伴う損失、FDD 事業終了による損失、マレーシアのスピーカーボックス製造販売子会社のクンダーの閉鎖損、英国の事業再編に伴う子会社清算による損失も計上いたしました。

### 電源関連事業からの撤退

このたび、電源関連事業からの撤退を決定いたしました。具体的には、スイッチング電源の他、インダクター、トランスフォーマー及びソフトフェライトであります。電源事業は、2年前から不採算部門と位置付け、事業戦略を見直し業績改善に取り組んで参りましたが、当社の技術開発力における優位性を十分に活かし切れず、高付加価値分野での売上拡大が思うように進みませんでした。このようなことから、今後も大幅な収益改善は困難と判断して事業の撤退を決定したものであります。今後、事業譲渡も含めて方策を検討してまいります。

2003年3月期の電源事業売上は、関連事業も含めて 116 億円で、営業損失は 23 億円でありました。今後も顧客への受注残納入が終了するまで事業を継続しますので、2004年3月期の売上高は 113 億円、営業損失は 15 億円発生する見込みです。しかし、今年12月までには電源関連事業を終了する予定のため、2005年3

月期は損失は発生しない見込みです。今回の決定により、不採算部門の対策はほぼ全て終了し、当社事業は当社の真の競争力を活用した製品事業のみにほぼ集約されることとなります。今後のミネベアグループの業績改善に向けて、さらには、次の成長段階へ大きく前進することとなります。ミネベアは経営資源を超精密機械加工技術を中心とする得意分野に集中させて発展成長を目指します。

#### **第4四半期の実績見込みについて**

第4四半期の業績につきましては売上高 660 億円、営業利益 29 億円、経常利益 19 億円の見込みです。売上高は計画通りでありましたが、営業利益は計画を大幅に下回る見込みになりました。

第4四半期の利益見込みが第3四半期の水準から低下した理由は、

- － 売上減少によりキーボードとファンモーターの利益が減少したこと
- － スピンドルモーターの価格が下落したこと
- － エレクトロデバイス、電源関連製品の損益が悪化したこと
- － ステッピングモーターの利益が低下したこと
- － その他電子機器製品の利益が全般的に低下したこと

であります。

第4四半期は2月後半からPC関連需要が減速した影響が非常に大きく出ました。しかし、需要環境のみが問題ではないことを認識しております。今回は、電子機器製品の利益水準の低下が顕著でありました。特に、回転機器及びキーボード以外の電子機器製品であります。これら製品につきましては電源関連事業は本日発表のとおりですが、他事業につきましては、先日発表済みの製造本部統合をきっかけとして事業の強化改善を図ってまいります。一方、スピンドルモーターの黒字化も最重要課題です。第4四半期は価格も大幅に下落し数量も計画に届きませんでした。しかし、損失はすでに縮小に向かっており、早期の黒字達成に鋭意努力しております。キーボードとファンモーターは季節的要因から売上高が減少し利益に影響しましたが利益水準は悪くありません。需要が標準水準に戻り利益は回復するとみております。

一方、機械加工製品は総じて好調でした。特に、ボールベアリングにおいては売上が計画を下回ったため営業利益は計画に届きませんでした。利益率は予想以上に向上し、利益は第3四半期からさらに拡大しました。現在進めている事業拡大戦略を実現するために大変意義のある結果と思っております。

#### **2004年3月期の業績の見通しについて**

2004年3月期は、営業利益で200億円以上を目指します。2003年3月期の従来予想を下回る水準ではありますが、現在の不透明な事業環境の下、確実に達成したい水準と考えています。

2004年3月期は、機械加工技術を活用し、世界トップシェア製品で一層の差別化を図り競争力を向上させ事業を拡大してまいります。また、提携やアライアンスも手段の一つとします。このようなことにより、事業を拡大させ、業績を改善させ、同時に、キャッシュフローにも重きをおいた経営を実践してまいります。

以上

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。